

鳥取春陽 演歌師・作曲家。大正デモクラシーの黄昏から昭和モダンリズムを舞台に、一世を風靡した。

とっとりしゅんよう

♫7/国産化・1900 =

岩手県下閉伊郡刈屋村(宮古市)で、平家の末裔の大農鳥取民五郎・キクノの長男に生まれる。本名貫一。田中正造直訴1901 = 1歳：母が死去、叔母や祖父母に養育されて育ちながらも、

母への思慕から、孤独感に苛まれ一方、**優れた音感を持ち、**

日露戦争終・1905 = 5歳：

頭が良く、学校の成績も良かったが、

伊藤博文暗殺1909 = **9歳**：

大逆事件判決1911 = 11歳：父が出資していた製糸工場が破産し、家が没落して、心に傷を負い、

明治天皇没・1912 = 12歳：

第一次大戦始1914 = 14歳：腕白ぶりを発揮して教師を困らせるようになる一方、**国産化されたハーモニカと出会って音楽に目覚め、**家の再建に必死な父と衝突、上級の学校にも進めないことから、高等小学校を卒業すると、**人かどの人物になろうと、出奔して上京、共同体からの疎外意識のなか、さまざまな職について苦勞するうち、定着した富川の本質宿で、常連の演歌師らと出会って意気投合、社会批判の目も養われ、**

ロシア革命・1917 = 17歳：

処女作「みどり節」を作曲すると、歌詞をつけて貰おうと、大物添田唾禅坊を訪ね、まだ15だった知度が作詞するのに驚異を感じるも、この天才父子の知遇を得て、本格的に演歌の道を歩み始める。

本格政党内閣1918 = **18歳**：

若手演歌師の熱意で、唾禅坊を会長に{演歌組合・青年親交会}が結成されると、彼らの作曲を任せられ、

ㄖ1919 = 19歳：

機関誌{演歌}も発行される。素晴らしい声で歌が上手いにもかかわらず、流行しだした浅草オペラには入らず、その影響で創作しながら、独学でピアノをマスター、演歌が艶歌となっていく先陣を切り、

原敬首相暗殺1921 = 21歳：

浅草で即興の作曲で集まる人々を指導して大合唱になるなど豪快な行動。徴兵検査で帰郷した際も、その風貌気にする警察が同行。東京に戻って、***のちに「シーハイルの歌」となる名曲「浮草の旅」を生む一方、「ピエロの唄」作曲で認められるようになる。**

水平社結成・1922 = 22歳：

{民衆娯楽}と改題されて書店にも並ぶようになる。**のち自らの最大のヒット曲となる「籠の鳥」を作曲。**

関東大震災・1923 = 23歳：

親友知事作詞の「大震災の歌」作曲。活動拠点を震災影響なかった大阪に移して、安住の地となり、

護憲三派圧勝1924 = 24歳：

***震災からの「復興節」で歌手としてレコードデビュー、「船頭小唄」は街頭演歌師としての声価を高める。映画「籠の鳥」が大ヒットとなり、主題歌「籠の鳥」も大ヒット、声価は決定的なものとなる。以後、「恋慕小唄」「すたれもの」「赤いばら」など次々吹込み、いずれも大ヒット、絶頂期を迎え、時代の寵児となって行く。**

円本時代始・1926 = 26歳：

業界初の専属契約をオリエンレコードとして、知事作詞の「思い出した」がヒット後、

金融恐慌・1927 = **27歳**：

ビクターを皮切りに、アメリカ資本の流入でレコード会社が驚異的發展してゆくなか、

共産党事件・1928 = 28歳：

ニッポンレコードで「新民謡「浅草小唄」を吹込み、全国区のヒット曲となったりするが、ブームとなった行進曲物を次々作曲し自ら歌って吹込むも、ビクターの中山晋平に完敗、ジャズ的手法取入れた傑作「ストリートガール」を作曲するも、あまりにも時代を先駆けていたため、ヒットにならず、

世界恐慌・1929 = 29歳：

おそらく古賀政男の「影を慕いて」に影響与えたと思われる「君を慕いて」を作詞作曲、

海軍軍縮条約1930 = 30歳：

名古屋のツルレコードから、作詞・作曲・歌手と一人三役で、なお多くの作品を発表、内縁の妻山田貞子歌う「思い直して頂戴な」が久しぶりにヒット(カフェー歌謡代表曲に)、のちの昭和流行歌メロディの原点ともいべき作品集「モダン小唄集」も出版され、時代が一気にエロ・グロ化するなか、

満州事変・1931 = 31歳：

***ビクターの独走に歯止めかけようとするコロムビアからの要請で上京、変名も使って、それまでで最も多くの曲を吹込むも、すでに病んでいた肺結核が悪化、古賀政男がコロムビアでホームランを放つと、**

五一五事件・1932 = 32歳：

山田貞子に看取られながら寝たきり生活に入り、自らの終焉を悟るように、没した。